

道徳

「指導者用デジタル教材」を用いた授業展開例

中学校 第3学年 道徳科 学習指導案

愛知県東海市立名和中学校
教諭 阪本 景子

主題名 集団の一員として

教材名 29 旅立ちの日に（1時間）

内容項目 C よりよい学校生活、集団生活の充実

本時のねらい 卒業式に臨む姿勢を考えることを通して、自分たちの学校を改めて見つめ直し、学校の一員として自分にできることは何かを考えようとする態度を育てる。

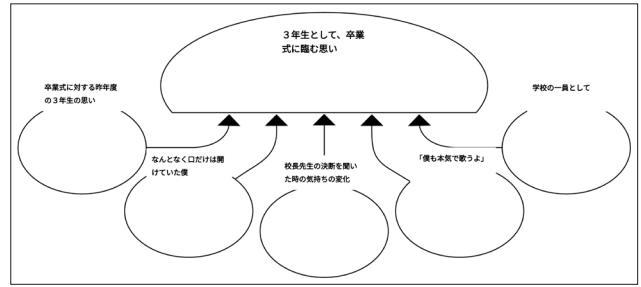
指導時期 3月頃

「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

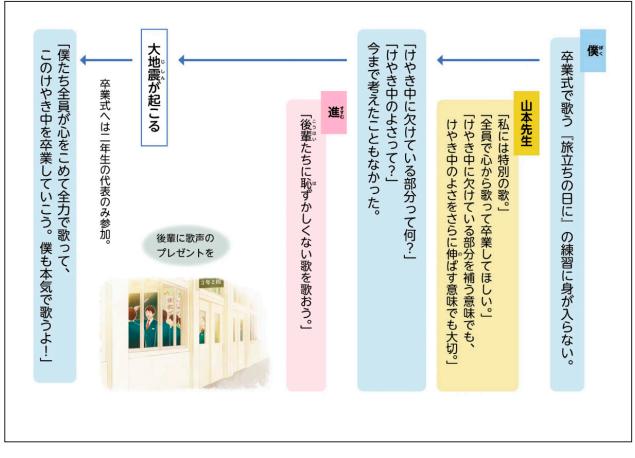
本授業における「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的は、紙媒体中心の授業では難しかった学びの質を高めることである。「指導者用デジタル教材」の「思考ツール」にある「クラゲチャート」を用いて考えを可視化し、全員の考えを短時間で共有することで、生徒の発言の偏りを解消し、多様な意見に基づく協働的な話し合いを促す。また、ICTの活用により、生徒は自分のペースで思考を整理できる「個別最適化」と、意見を比較・検討して学級全体で深め合う「協働化」の両立が可能となる。さらに、「思考ツール」と「朗読音声」、「さし絵・写真」の特長をそれぞれ生かし、「もし自分が『僕』の立場なら」と投影的に考えることを促すことで、卒業式に臨む姿勢や学校生活でのあり方を、主体的に見つめ直す態度を育てる。

以上のように、「指導者用デジタル教材」の活用は、①思考の可視化と共有、②個別最適化と協働化の両立、③主体的な価値意識の形成、という三つの柱を目的とし、生徒の学びをより深く、広がりのあるものへと導くことをねらいとしている。

本時の展開

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> 「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 「指導者用デジタル教材」の「思考ツール」にある「クラゲチャート」を、生徒に配付する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に「クラゲチャート」に発問を入れておくと、生徒が活用しやすい。 

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	<p>1. 自校の卒業式で合唱する3年生の姿から、卒業式に臨む姿勢を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自校の卒業式での合唱の動画を再生する。 T：昨年度の3年生には、どんな感情や思いがあつたと思いますか。 S：後輩に、この学校のよさを届けたい。 S：伝統を引き継いでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 先輩たちが築いた学校のよさや伝統を実感し、その思いを受け継ぐ視点から、よりよい学校生活や集団の一員としてのあり方を考えるきっかけとし、教材に入りやすくなる。 「クラゲチャート」に考えを入力させる。
	<p>2. 「旅立ちの日に」を読み、卒業式の意義について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 範読を聴く。 T：「なんとなく口だけは開けて」歌っていた「僕」は、どんなことを考えていたのだろう。 S：周りに合わせて口を動かしておこう。 S：どうせ卒業式は形だけだし、歌っても意味はないと思っていた。 S：学級や学校への思い入れがない。 S：山本先生の言葉が心のどこかで残っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「指導者用デジタル教材」の「朗読音声」を活用する。 
展開		<ul style="list-style-type: none"> 「指導者用デジタル教材」p.154、156の「さし絵・写真」を提示し、山本先生や進の話を聞いた後の「僕」の気持ちを考える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> 「クラゲチャート」に、個人の考えを入力し、グループで共有して、「僕」の思いについて考える。

	活動内容	デジタル教材の活用
展開	<p>〔補助発問〕</p> <p>T：校長先生の決断を知ったとき、「なんとなく口だけ開けて」歌っていた以前の自分に対して、「僕」はどんな思いになったのだろうか。</p> <p>S：仲間の努力や先生の思いを軽く見てしまっていた。</p> <p>S：先輩として、格好いい姿を見せて卒業することに気づいていなかった。</p> <p>T：「僕も本気で歌うよ！」と大きな声で言った「僕」は、何に気づいたのだろう。</p> <p>S：校長先生や山本先生が、いつでもどんなときも自分たちの命や心を、第一に考えてくれていた。</p> <p>S：卒業式の歌を一生懸命歌うことは、けやき中の伝統や思いを受け継ぐ大切な行動だ。</p> <p>S：卒業式は、後輩や先生、保護者に、そして自分たち自身に成長した姿を披露する場だ。</p> <p>T：学校の一員として、あなたは誰に、何を伝え、何を残して卒業していきたいだろうか。</p> <p>S：先生や後輩、親に感謝の気持ちを伝えたい。 (理由：先生や後輩、親にお世話になったから。)</p> <p>S：自分も後輩たちに、先輩たちの歌声はすごいと思わせられるような本気の姿を残したい。 (理由：自分も、先輩たちを見て、ああなりたいと憧ってきたから。)</p>	<p>●「指導者用デジタル教材」p159の「整理しよう」を提示し、教材の内容を確認する。</p>  <p>卒業式へは一年生の代表のみ参加。 「僕たち全員が『ら』をつめて全力で歌つて、このけやきを卒業していこう。僕も本気で歌うよー。」</p> <p>「大地震が起る」</p> <p>「僕たちは特別の歌。全員から歌って卒業してほしい!」「けやき中に欠けてある部分を補つて、今まで歌えたこともなかつた。今まで歌えたこともなかつた。」</p> <p>「進!」「後輩に歌声のプレゼントを」「後輩たちに恥ずかしくない歌を歌おう!」</p> <p>「僕」 山本先生</p> <p>卒業式で歌う「旅立ちの口」に身が入らない。</p> <p>●教師は発問を投げかけ、生徒の考えを板書する。この二つを可視化することにより、登場人物の気持ちの変化を明らかにする。</p> <p>●「僕」の気づきを引き出すようにしたい。</p> <p>●校長先生の決断や進の言動が、「僕」に何を気づかせたのかを考える。</p> <p>●「自分が『僕』の立場だったらどうだろうか」と促し、考える時間を確保したうえで、板書によって整理していく。</p> <p>●「クラゲチャート」に、個人の考えを入力させる。</p> <p>●「指導者用デジタル教材」p.158～159の「さし絵・写真」を提示し、自分の考えをまとめる。</p>  <p>●もうすぐ卒業する立場として、自分の課題として受け止め、多面的・多角的に考えるよう助言する。</p> <p>●なぜそうしたいと思うのか、根拠も併せて、「クラゲチャート」に個人の考えを入力させる。</p> <p>●班で話し合うことで、互いの考えを学び合い、集団としての意識を高めたい。</p>

	活動内容	デジタル教材の活用
終末	<p>3. 3年生として卒業式にどう臨みたいか、自分の考えをまとめること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 合唱曲「旅立ちの日に」を鑑賞する。 <p>T：今感じている気持ちは、教材の主人公である「僕」がどの場面で感じた気持ちと似ていますか。</p> <p>T：これから迎える卒業式に、あなたはどんな姿勢で臨もうと思うか、考えをまとめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音源を準備し、曲を鑑賞する前に「どんな思いや情景が浮かぶか」「歌詞や歌声から何を感じるか」など、着眼点を示す。 生徒自身の感情と教材との関連性を明確にする。 <p>卒業式に臨む自分自身の姿勢・態度について考えたことを書かせる。</p>

「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

本授業で「指導者用デジタル教材」を活用することで、従来の紙媒体中心の指導では得られなかつた教育的効果が明らかになった。

第一に、「思考ツール」にある「クラゲチャート」を用いた思考の可視化により、生徒一人一人の考え方を短時間で収集・整理できた。従来は発言者に偏りが生じやすかったが、全員の意見を共有することで多様な考え方を比較できるようになり、協働的な話し合いが促進された。

第二に、「思考ツール」は生徒の理解度や思考に応じた「個別最適な学び」を可能にすると同時に、意見を全体で共有することで「協働的な学び」も実現した。これにより、すべての生徒が自分の考えを主体的に表明しつつ、集団の一員としての学びに参画できる環境を整えることができた。